



Global Business Dialogue on Electronic Commerce

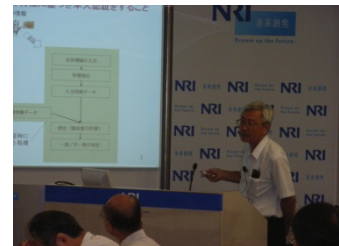
Cyber Security Issue Group Workshop

2008年9月8日(月)

プレゼンテーション概要

1 「バイオメトリクスセキュリティの普及」

IPA セキュリティセンター
情報セキュリティ技術ラボラトリー長
小林 偉昭



人間の持つ生体上の特徴に基づいて本人認証を実現するバイオメトリック認証の利用が拡大している。バイオメトリック認証の利用者に対しては、客観的な情報を提供することにより誤解を解く啓発資料やツール提供が必要である。又、バイオメトリック認証製品の開発者に対しては、健全な製品の普及に向けた技術開発や製品提供の促進が必要である。

IPA では、安全・安心なセキュリティ基盤を実現していくための適切な普及・啓発活動を実施している。具体的な普及・啓発活動の概要を紹介し、今後のIPAの目指す方向を明確にする。

2 「バイオメトリクスセキュリティの現状と課題」

株式会社 日立製作所 情報・通信グループ
セキュリティ・トレーサビリティ事業部
ユビキタスデバイス部 指静脈認証ユニットビジネス部
主任技師 三村 昌弘



バイオメトリック技術は、様々な分野における個人の認証手段として近年利用が急速に拡大してきている。本セッションでは、バイオメトリック技術のセキュリティにつき、現状、どのようなバイオメトリック技術に特有の課題があり、各課題への対応にどのようなアプローチが可能であるか、最先端技術や標準化の動向も踏まえて報告する。

3 「バイOMETRICSセキュリティの展望」

早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工
学科 教授 小松 尚久



ここでは、個人認証の手段として必要とされるパラメータについて説明すると共に、個人認証の一手段であるバイOMETRICS認証の特徴と運用要件について概説する。又、運用を決定する要件の一つである認証精度評価を中心に、ISO/IEC 国際標準化の動向等について述べる。

次に、国内外の研究・標準化活動において注目されているバイOMETRICSセキュリティ技術について、特にテンプレート保護の観点から最近の検討状況に触れ、バイOMETRICS認証の課題と展望をまとめる。